

第1回「大阪府 アドプト・プログラムのあり方懇話会」概要

【日時】

平成28年3月3日（木） 15時～17時

【場所】

新別館北館1F 会議室兼防災活動スペース2

【出席者】

- ・委員
河井 孝仁（東海大学文学部広報メディア学科・教授）
藤原 明（りそな総合研究所株式会社・リーナルビジネス部長）
塩山 諒（NPO 法人スマイルスタイル・代表理事）
- ・事務局
大阪府都市整備部事業管理室

【要旨】

1. 委員会の説明事項

- ・アドプト・プログラムの概要
- ・都市基盤施設の維持管理とアドプト・プログラムについて
- ・アドプト・プログラムの課題
- ・アドプト・プログラムに対する府民、企業のニーズ把握の結果について
- ・今後の議事の進め方について

2. 委員の主な意見

【アドプト・プログラムを見直す上での視点について】

- 行政の視点だけでなく、府民、企業の視点も考慮し、アドプト・プログラムの見直しについて議論すべき。
- アドプト・プログラムに取り組んでいる大阪府として、アドプト・プログラムの目指す目的が何なのかを明確に、可能であれば定量的に、整理・収束させ、その目的と個々のアドプト活動との関係性を組み立てるべき。
- アドプト・プログラムが、地域の自発的な活動から始まったという地域起源の観点からみると、アドプト・プログラムの見直しは、今年度実施された府民へのヒアリング結果によって明らかになったように「活動していて良かったと感じること」という部分を伸ばしていく形で、実施することが必要。

【アドプト・プログラムの継続について】

- アドプト団体の主体性がないと、活動は継続しない。主体性をもたせる為には、アドプト団体の活動に自由度を持たせるべきであり、行政からアドプト団体に対して、「公共空間で清掃をしてほしい」という投げかけだけを行うのではなく、「公共空間をどのように利用したいか」といった、アドプト団体の活動目的を明確化できるような投げかけを行うことも大事。
- 今年度のアドプト・プログラムに対する府民、企業のニーズ把握調査において、アドプト団体が地域の方から、お礼を言われたことが活動を続けていく上でのモチベーション維持になったという事実は重要である。これは、アドプト団体の活動を「見える化」することがモチベーションの向上につながるということを表している。「見える化」する方法としては、例えば、サポートする側の行政またはNPO・企業等がアドプト・プログラムに対する府民の意識等を指標にすることや、府民が活動したいと思うような仕組み作り（活動のデザイン化等）を行うことが必要。

【アドプト・プログラムの充実について】

- アドプト団体が活動する動機は、必ずしも「まちを綺麗にしたい」ということだけではない。それぞれの団体で様々な動機が存在する為、清掃活動以外の活動に発展することがあってもよいのでは。（環境活動、情操教育などの教育活動等）

【各主体の役割】

- アドプト団体もつ「行政に何かをしている」または「してもらっている」という概念を変える必要がある。その為には、まず、アドプト団体が「何をしたいか」ということを明確化した上で、それに対して、サポートする側の行政またはNPO・企業等が「できること」を明確にすることが必要。しかし、支援が過度になってはアドプト団体の主体的な活動が持続しないため、支援の内容、度合については整理が必要。

【行政の役割について】

- 行政が支援すべきことは、アドプト団体が主体的に活動できるよう、15年の間に培ってきたノウハウを開示すること。例えば、活動が上手くまわっているアドプト団体の成功事例を1つのモデルケースとし、どのように運営・活動しているかといったノウハウを公開する。そして、そのノウハウをアドプト団体が学び、自主性をもって活動することで、持続可能な活動となるのではないか。
- ノウハウの開示内容としては、アドプト団体に活動の①きっかけ、②苦勞したこと、③良かったこと、④これで何を成し遂げたいのか、をヒアリングし、それを公開することも効果的だと考える。

【アドプト・プログラムの参考となる取組について】

- アメリカの事例だが、治安の悪い地域で、母親が子供を安全に遊ばせる取り組みを行った。内容は空いている公共の土地を行政と交渉して借り受け、企業の寄付金で遊具を整備、母親たちが組織化し管理を行っている。またその成果をネットで公開し、成功のノウハウを有料で情報提供し、活動資金に充当している。
- 千葉県では、アプリを使って、市民がインフラの不具合を通報し、迅速に対応する「ちばレポ」という取組があるが、あれは、街づくりの一つのデザイン。住民が、公共の場を使って、勝手に多様性を持って動いていくようデザインすることが大事。市民のやる気を育てるためにはデザインでの工夫や、見える化などが重要。

【議論のまとめ】

- 本懇話会では、「アドプト・プログラムのあり方」を検討していく上で、まず、「公共空間を最適に管理するために、行政だけでなく、アドプト団体等の府民や企業がどこまで関与できるか」という大きな観点で考えていきたい。
- 本懇話会としては、まず、「公民による公共空間の最適管理」という、大きな観点での議論をしていき、事務局としては、懇話会の議論を参考に、アドプト・プログラムをどう見直していくか考えてもらいたい。